

1. RIの憲章ライフパトロン



In recognition of his outstanding services to the representation of the world of the disabled through international cooperation, and in appreciation of his personal support towards the advancement of the worldwide aims and goals of Rehabilitation International.

Dr. Kazuo Takagi
(in recognition of his services as a)
Charter Life Patron Member
and of his personal support and guidance

K Takagi



In recognition of his outstanding services to the representation of the world of the disabled through international cooperation, and in appreciation of his personal support towards the advancement of the worldwide aims and goals of Rehabilitation International.

Dr. Fumihiko Koike
(in recognition of his services as a)
Charter Life Patron Member
and of his personal support and guidance

F Koike



Life Patron of RI

世界中の障害者の生活の向上に対し不遺の熱心をおこされたことを表彰し、リハビリテーション・インターナショナルの世界的使命と目的達成へ多大の支援を賜ったことに感謝して、ここにDr. 小池文彦(故人を偲び)を憲章ライフパトロン会員に任じ、その権利と特典を授けます。

15 November 1969

会 長 Fenimore R. Seton
事務総長 Sus. R. Hammerman

第48回 全国肢体不自由児 療育研究大会

会期：平成15年10月30日(木)・31日(金)
会場：長崎ブリックホール



主 催：全国肢体不自由児施設運営協議会
後 援：厚生労働省・長崎県・長崎市
社会福祉法人 日本肢体不自由児協会
長崎県肢体不自由児協会・長崎県医師会
長崎市医師会・長崎市歯医会 (NPO/NGO)

・平成2年 小泉厚生大臣の見学

(坂口前心身障害児総合医療療育センター)





自立・家族支援の柱としての障害の受容

宝子伝説

貧しかった昔、障害のある子が
産まれた家に次々と倉が立った。
(神様からの授りもの)

「この子らを世の光に」

臨床心理士・児童精神科医を中心とした
チームアプローチによる心のケア・情緒的支援



スタッフの余裕・より高度な専門性

全国肢体不自由児施設の概要

(1) 施設数及び入所定員 (平成19年3月1日現在)

(戦 人)

区 分	施設数	一般病棟	重度病棟	母子病棟	小 計	通園部門	合 計
公立公営	27か所	1,943	166	134	2,243	355	2,598
公立民営	12	672	0	63	735	275	1,010
民立民営	23	897	347	31	1,275	473	1,748
合 計	62	3,512	513	228	4,253	1,103	5,356

(2) 入所児童現員及び病類別児童数 (平成19年3月1日現在)

病 名	児 童 数	比率(%)
脳 性 麻 痺	1,177人	51.1
CPを除く脳原性疾患	397	17.3
ペ ル テ ス 病	121	5.2
二 分 脊 椎	82	3.6
進行性筋・神経疾患	81	3.5
骨 系 統 疾 患	97	4.3
先天性股関節脱臼	15	0.7
その他整形外科的疾患	51	2.3
そ の 他	278	12.0
計	2,299	100.0

(3) 年齢別入所児童数 (平成19年3月1日現在)

年 齢	児 童 数	比率(%)
0～6歳未満	360人	15.6
6～13歳未満	928	40.4
13～15歳未満	374	16.3
15～18歳未満	363	15.8
18歳～	274	11.9
計	2,299	100.0

(4) 在所期間別児童数 (平成19年3月1日現在)

(単位 人)

入園期間	～3月	4月～6月	7月～1年	1年～2年	2年～3年	3年～5年	5年以上	計
児童数	356	168	272	241	187	263	812	2,299
比率(%)	15.5	7.3	11.8	10.5	8.1	11.4	35.4	100.0

(5) ADL別在所児童数 (平成19年3月1日現在)

(単位)

区分	食事	着脱衣	洗面歯磨	大小便	入浴	歩行	言語	計	比率%
○	901	630	677	521	411	442	1,024	4,606	28.6
△	575	453	420	444	432	396	399	3,119	19.4
×	817	1,188	1,190	1,283	1,396	1,289	876	8,039	50.0
◆	6	28	12	51	60	172	0	329	2.0
計	2,299	2,299	2,299	2,299	2,299	2,299	2,299	16,093	100.0
要介助比率	60.8	72.6	70.6	77.3	82.1	80.8	55.5	71.4	—

※ ○⇒独りで出来るもの、△⇒相当介助を要するもの、×⇒全面介助を要するもの

(言語の項目については) ○⇒分かるもの、△⇒時々分かるもの、×⇒分からないもの

◆⇒治療の過程(ギブス・けん引等)で出来ない場合

(6) 入所児童の知能指数状況 (平成19年3月1日現在)

知能指数	75以上	75以下	50以下	35以下	測定不能	未調査	計
児童数	356人	312	262	507	441	421	2,299
比率(%)	15.4	13.6	11.4	22.1	19.1	18.4	100.0

(7) 職員数と入所児童数の比率 (平成19年3月1日現在)

区分	全職員	看護要員	保育士・指導員	
公立公営	定員	1.1	2.0	9.3
	現員	0.4	0.8	3.6
公立民営	定員	1.3	3.0	12.9
	現員	0.7	1.3	5.3
民立民営	定員	2.4	4.4	22.4
	現員	0.6	1.2	5.5
合計	定員	1.4	2.6	12.1
	現員	0.5	1.0	4.5

※1. 看護要員は、看護師、准看護師、看護助手、保育士、指導員である。

2. 職員数は正職員のみである。

(10) 障害児(者)地域療育等支援事業実施状況

- ① 療育等支援施設事業の指定施設 30施設
- ② 療育拠点施設事業の指定施設 10施設

(11) 入所児者の外泊状況

年月	延日数	延件数	実人員
18・3	7,477	3,718	1,509
4	6,065	3,646	1,318
5	8,373	3,835	1,535
6	5,077	2,947	1,118
7	7,824	4,149	1,485
8	13,539	3,799	1,874
9	6,383	3,694	1,475
10	5,995	4,082	1,480
11	5,968	3,372	1,208
12	9,600	4,472	1,794
19・1	11,014	4,511	1,881
2	5,411	3,033	1,171
合計	(90,836) 92,726	(45,258) 39,182	(17,848) 15,822

入院料の算定出来ない2泊3日以上を対象に延日数、延件数及び実人員を計上
()は昨年の数

(12) 重度・重症児別入所児童数 (平成19年3月1日現在)

区 分	児 童 数
大島分類 1～4	(890)人 769
大島分類 5～9	(409) 447
超重症児 (スコア25点以上)	(34) 41
準超重症児 (10～24点)	(100) 95

62施設実施

(13) 外来患者の被虐待児 (平成18年3月～19年2月)

区 分	児 童 数
身体的虐待	48人
ネグレクト	42
心理的虐待	26
性的虐待	0
計	116

(14) 外来患者数調べ

① 1週間の延外来数 (特定の1週間)

区 分	外 来 数	割 合
小児 (18歳未満)	12,864	70.1%
成人 (18歳以上)	5,479	29.9
合計	18,343	100.0

② 外来患者における主病名 (特定の1週間)

区 分	小 児	成 人
脳原性運動障害	5,321	2,086
脊髄性運動障害	264	207
筋・神経疾患	260	123
骨系統疾患	119	43
先天性奇形症候群 体表奇形	239	先天異常 70
小児整形外科疾患	679	
その他の整形外科疾患	100	1,527
精神遅滞、知的障害	2,306	214
てんかん	443	275
自閉症	1,481	
ADHD、LD	341	
言語発達遅滞	652	
視覚・聴覚障害	91	
その他の小児科疾患	162	
その他	406	934
合 計	12,864	5,479

外来未実施施設2 59施設実施
未調査1

障害児の包括的評価法 マニュアル

JASPERの実践的活用法

編集：全国肢体不自由児施設運営協議会



JASPER

Japanese Assessment Set of
Paediatric Extensive Rehabilitation

日本広範小児リハ評価セット

目次

1	生命維持機能評価法	
	JASPER摂食嚥下呼吸機能評価票の使い方	(神田豊子/村山恵子) ・ 2
	摂食嚥下呼吸機能評価票Ver.6.05の概要	2
	生命維持機能評価付録：脳性麻痺児・者(CP)における呼吸状態の 臨床的評価ー呼吸機能記載票およびVisual Analog Scale (VAS)	7
	摂食嚥下呼吸機能問診票および誤嚥可能性検出票Ver. 6.05	11
	水分・栄養摂取方法見直しの指針(対策シート)	16
	摂食嚥下呼吸機能問診票および誤嚥可能性検出票使用マニュアルVer.6.05	17
	摂食嚥下機能評価付録：ビデオ嚥下造影検査(VF)評価記載票	20
	付録：VF評価マニュアル	22
	生命維持機能評価Ver. 6.05付録：呼吸機能記載票およびVisual Analog Scale (VAS)	24
	生命維持機能評価Ver. 6.05付録：呼吸機能記載票およびVisual Analog Scale (VAS) 使用マニュアル	26
2	脳性麻痺簡易運動テスト	
	Simple Morter Test for Cerebral Palsy : SMTCP	(近藤和泉/中村純人/細川賀乃子) ・ 28
	SMTCPの作成過程	28
	Ver. 2.01から2.10までの改訂	28
	GMFMを基準尺度とした同時妥当性の検討	28
	今後の可能性	29
	施行手順	30
	採点方法	30
	脳性麻痺簡易運動テスト採点用紙	32
	施行指針	34
	1. 背臥位：45度頭をもち上げる	34
	2. 背臥位：おもちゃに触るためにどちらか一方の上肢を正中線をこえて 反対側に伸ばす	34
	3. 腹臥位，前腕で身体を支えて：頭部を直立位にし，肘を伸展し， 胸も床から離れる	34
	4. 前腕支持の腹臥位：体重を右前腕で支持し，対側の上肢を前方へ完全に伸ばす	35
	5. 前腕支持の腹臥位：体重を左前腕で支持し，対側の上肢を前方へ完全に伸ばす	35
	6. 腹臥位：手足を使って左右どちらかへ90度旋回(pivot)する	35
	7. 背臥位：どちらか一方へ寝返ってから，坐る	36
	8. マットの上に坐って：上肢で支持せずに坐位を3秒間保持する	37
	9. マットの上に坐り，前方に小さなおもちゃを置いて ：前方に身体を傾けおもちゃに触り，上肢の支持なしで再び坐位に戻る	37
	10. ベンチに坐って：10秒間，上肢や下肢で支えないで姿勢を保つ	37
	11. 床の上から：小さなベンチに坐る	38
	12. 床の上から：大きなベンチに坐る	38
	13. 腹臥位：前方へ1.8m肘這いする	38
	14. 四つ這い位：前方へ1.8m四つ這いまたは弾み這いをする	39
	15. マット上坐位：上肢を使って膝立ちになり，上肢で支えずに，10秒間保持する	39

16. 膝立ちして：上肢で支えずに前方へ10歩，膝歩きする	39
17. 立位：上肢の支えなしで，20秒間保持する	40
18. 小さなベンチに坐って：上肢を使わないで立ち上がる	40
19. 膝立ち：片膝立ちになってから立ち上がる，上肢を使わないで	40
20. 立位：コントロールして，しゃがんで床に坐る，上肢を使わずに	41
21. 立位：上肢で支えずに，床から物を拾い上げ，立位に戻る	42
22. 立位，片手でつかまって：前方へ10歩歩く	42
23. 立位：前方へ10歩歩く	43
24. 立位：20cm間隔の平行線の間を，前方へ10歩歩く	43
25. 立位：どちらか一方の足でボールを蹴る	43
26. 立位，上肢で支えて：4段昇る，交互に足を出して	44
27. 立位，上肢で支えて：4段降りる，交互に足を出して	44
言葉の説明	45

3 基本的ADL評価法

JASPER・ADL Ver. 3.2の使い方	(伊達伸也/高橋義仁)・48
JASPER・ADL Ver. 3.2の特徴	48
評価の構造	48
評価表の使い方	49
注意点	49
活用の仕方	49
ADL評価表Ver.3.2	50
JASPER・ADL Ver.3.2記入マニュアル	55
1. 食事	55
2. 排泄	58
3. 更衣	62
4. 整容	71
5. 入浴	74
6. 基本的移動能力	76
Q&A	86

4 変形・拘縮評価法

	(湊 純/岡安 勤)・90
本評価法の利用法	90
評価の基本事項	90
準備するもの	91
変形・拘縮評価表Ver. 5.1.3	92
評価表の記入	96
slow stretch版について	97
評価マニュアル	98
1. 頸部の回旋	98
2. 体幹の変形・拘縮	99
3. 肩関節の屈曲	101
4. 肘関節の伸展	101
5. 前腕の回外	101

16. 膝立ちして：上肢で支えずに前方へ10歩，膝歩きする	39
17. 立位：上肢の支えなしで，20秒間保持する	40
18. 小さなベンチに坐って：上肢を使わないで立ち上がる	40
19. 膝立ち：片膝立ちになってから立ち上がる，上肢を使わないで	40
20. 立位：コントロールして，しゃがんで床に坐る，上肢を使わずに	41
21. 立位：上肢で支えずに，床から物を拾い上げ，立位に戻る	42
22. 立位，片手でつかまって：前方へ10歩歩く	42
23. 立位：前方へ10歩歩く	43
24. 立位：20cm間隔の平行線の間を，前方へ10歩歩く	43
25. 立位：どちらか一方の足でボールを蹴る	43
26. 立位，上肢で支えて：4段昇る，交互に足を出して	44
27. 立位，上肢で支えて：4段降りる，交互に足を出して	44
言葉の説明	45

3 基本的ADL評価法

JASPER・ADL Ver. 3.2の使い方	(伊達伸也/高橋義仁)・48
JASPER・ADL Ver. 3.2の特徴	48
評価の構造	48
評価表の使い方	49
注意点	49
活用の仕方	49
ADL評価表Ver.3.2	50
JASPER・ADL Ver.3.2記入マニュアル	55
1. 食事	55
2. 排泄	58
3. 更衣	62
4. 整容	71
5. 入浴	74
6. 基本的移動能力	76
Q&A	86

4 変形・拘縮評価法

	(湊 純/岡安 勤)・90
本評価法の利用法	90
評価の基本事項	90
準備するもの	91
変形・拘縮評価表Ver. 5.1.3	92
評価表の記入	96
slow stretch版について	97
評価マニュアル	98
1. 頸部の回旋	98
2. 体幹の変形・拘縮	99
3. 肩関節の屈曲	101
4. 肘関節の伸展	101
5. 前腕の回外	101